

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第2部門第1区分

【発行日】平成17年12月22日(2005.12.22)

【公表番号】特表2004-531364(P2004-531364A)

【公表日】平成16年10月14日(2004.10.14)

【年通号数】公開・登録公報2004-040

【出願番号】特願2002-558905(P2002-558905)

【国際特許分類第7版】

B 0 5 D 7/24

C 0 8 G 18/38

C 0 9 D 1/00

C 0 9 D 5/00

C 0 9 D 175/04

C 0 9 D 183/02

C 0 9 D 183/08

C 0 9 D 183/14

【F I】

B 0 5 D 7/24 3 0 2 T

B 0 5 D 7/24 3 0 2 Y

C 0 8 G 18/38 Z

C 0 9 D 1/00

C 0 9 D 5/00 D

C 0 9 D 175/04

C 0 9 D 183/02

C 0 9 D 183/08

C 0 9 D 183/14

【手続補正書】

【提出日】平成17年1月12日(2005.1.12)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

少なくともニコート構造を含んで成る保護コーティングであって、第一コーティングはアルコキシリル含有2成分ポリウレタン接着促進剤(プライマー)から成り、第二コーティングは有機もしくは無機コーティング又は有機-無機複合コーティングから成ることを特徴とする保護コーティング。

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 5 9

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 5 9】

従って、本発明の保護コーティングは、本発明に基づいてコートされた基材に対する極めて高い保護効果と極めて良好な耐候性(もしくは風雨安定性)との理想的な組み合わせを有する。

以下に、本発明の主な態様を示す。

1.

少なくともニコート構造を含んで成る保護コーティングであって、第一コーティングはアルコキシリル含有2成分ポリウレタン接着促進剤（プライマー）から成り、第二コーティングは有機もしくは無機コーティング又は有機・無機複合コーティングから成ることを特徴とする保護コーティング。

2.

第一コーティングは、

I) 2.5~5.0の平均NCO官能価と8~27重量%のイソシアネート含有量を有する少なくとも一種の有機ポリイソシアネート（B）と

一般式（I）：Q-Z-SiX<sub>a</sub>Y<sub>3-a</sub>

[但し、

Qは、イソシアネート反応性基、好ましくはOH、SHもしくはNHR<sub>1</sub>、ここで、R<sub>1</sub>は、C<sub>1</sub>~C<sub>12</sub>のアルキル基、C<sub>6</sub>~C<sub>20</sub>のアリール基もしくは-Z-SiX<sub>a</sub>Y<sub>3-a</sub>、であり、

Zは、直鎖状もしくは分枝状C<sub>1</sub>~C<sub>12</sub>のアルキレン基、好ましくは直鎖状もしくは分枝状C<sub>1</sub>~C<sub>4</sub>のアルキレン基であり、

Xは、加水分解性基、好ましくはC<sub>1</sub>~C<sub>4</sub>のアルコキシ基であり、

Yは、同じでも異なってもよいC<sub>1</sub>~C<sub>4</sub>のアルキル基であり、

aは、1~3の整数である。]

の少なくとも一種のイソシアネート反応性基を有するアルコキシラン（C）との付加物を含んで成る硬化成分（A）、並びに

II) イソシアネート反応性膜形成樹脂（D）

を含んで成る2成分ポリウレタン接着促進剤であることを特徴とする上記1に記載の保護コーティング。

3.

第二コーティングは、無機コーティング又は有機・無機複合コーティングから成ることを特徴とする上記1に記載の保護コーティング。

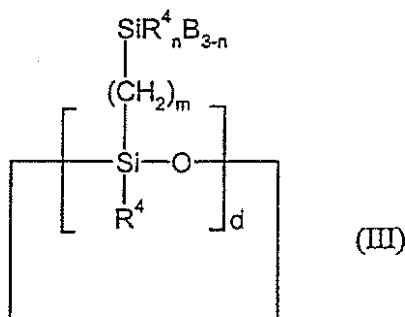
4.

無機コーティングは、有機変性無機コーティングであることを特徴とする上記3に記載の保護コーティング。

5.

有機変性コーティングは、一般式（III）

【化2】



[但し、

R<sup>4</sup>は、C<sub>1</sub>~C<sub>18</sub>のアルキル基及び／もしくはC<sub>6</sub>~C<sub>20</sub>のアリール基であり、R<sup>4</sup>は、分子内で同じでも異なっていてもよく、

Bは、OH基、C<sub>1</sub>~C<sub>4</sub>のアルコキシ基、C<sub>6</sub>~C<sub>20</sub>のアリールオキシ基、C<sub>1</sub>~C<sub>6</sub>のアシルオキシ基から選択される基であり、好ましくはOH基、メトキシ基もしくはエトキシ基であり、

d は、 3 ~ 6 であります、

n は、 0 ~ 2 であります、

m は、 2 ~ 6 である。】

の少なくとも一種の多官能性、環状カーボシロキサン

及び / 又はその（部分的）縮合生成物

を含んで成ることを特徴とする上記 4 に記載の保護コーティング。

6.

第一工程で、アルコキシリル含有 2 成分ポリウレタン接着促進剤（プライマー）を、  
第二工程で、有機もしくは無機コーティング又は有機・無機複合コーティングを基材に適用し、必要であれば、更なる工程で第三コーティングを適用することを特徴とする上記 1 に記載の保護コーティングの製造方法。

7.

基材は、ポリマー基材、金属基材又はガラス基材の群から選択されることを特徴とする上記 6 に記載の製造方法。

8.

ポリマー基材は、ポリカーボネート、ポリメチルメタクリレート、ポリスチレン、ポリ塩化ビニル、ポリビニルシクロヘキサン及びそれらのコポリマー、ポリアミド、ABS 又はそれらのブレンドであることを特徴とする上記 6 記載の製造方法。

9.

コートされた基材を、機械的な損傷及び / もしくは放射線による損傷及び / もしくは汚損から保護するための上記 1 に記載の保護コーティングの使用。

10.

上記 1 ~ 6 のいずれかに記載の少なくとも一つの保護コーティングを有して成る基材。